



みぬま通信 第59号

2014年7月



見沼たんぼくらのイベント

平成26年度見沼たんぼくら総会を開催 役員改選・新年度の活動計画など決まる

平成26年4月19日(土)午前、さいたま市立大宮図書館視聴覚ホールにおいて「平成26年度総会」を開催しました。総会では「平成25年度事業報告及び決算報告」が承認された後「役員改選」が行われ、新役員を選出するとともに「平成26年度事業計画及び予算」が承認されました。

また、総会終了後には「第57回自然観察ハイキング」も開催され、心地よい春の陽気の中、大宮図書館から氷川参道、武蔵一宮氷川神社、大宮公園を散策しました。

平成26年度～27年度 見沼たんぼくら役員

顧問 須藤 喜弘(埼玉県企画財政部土地水政策課長) <新任>

会長 新井 一裕<再任>

副会長 厚澤 正栄<再任> / 副会長 小野 達二<再任> / 副会長 三上 雅央<再任>

理事 岡野 秀夫<新任> / 理事 北原 典夫<再任> / 理事 佐々木明男<再任>

理事 島田由美子<再任> / 理事 砂長 敏郎<新任> / 理事 関根 通雄<再任>

理事 高橋いずみ<再任> / 理事 長澤 義則<再任> / 理事 召田 紀雄<再任>

理事 八木 一郎<再任> / 理事 若月きみ子<再任> / 理事 若野 忠男<再任>

監事 肥田野徳春(さいたま商工会議所中小企業振興部長) <再任>

監事 森 茂典(さいたま農業協同組合常務理事) <再任>

(根岸 稔記)

見沼ふれあい農園づくり 京芋・里芋・八つ頭・生姜栽培

今年で3回目の栽培が見沼たんぼ(緑区見沼)で始まりしました。5月1日の種イモの植え付け予定日が雨で1日順延となり好天の2日に会員15名が参加して行われました。

今回は耕地面積を少し広げ新しく京芋を加え、種イモの量は京芋25キロ、里芋70キロ、八つ頭50キロ、生姜40キロと昨年比45キロ増です。当日の作業は当くらぶ副会長の厚澤(元農業委員)さん指導のもとラインを持つ人、植穴を掘る人、植え付ける人等の役割分担で効率よく進み、開始から約2時間後の10時30分に終了しました。

植え付け後の作業は8月5日まで2週間～3週間毎に除草を中心に5回予定されており5月29日は追肥・土寄せ・除草を14名参加で行いました。

また、今年から仮説のトイレを畑の隅に設置したことにより見沼氷川公園まで行く必要もなくなりました。



参加者は「高級食材の京芋は食べたことがないので収穫が楽しみだわ。」「イモ類の栽培は今回で3回目になるので連作障害が出なければいいのですが。」などと話していました。

今年も例年どうり福祉団体に寄贈を予定しております。

(三上 雅央記)

見沼たんぼくらのイベント

第56回自然観察ハイキング

3月22日、「春は名をみの風の寒さよ」とあるが、この日も肌寒い日であった。今年は春が遅いようだ。

受付となった、東浦和駅前には94名の参加者が集まり、見る間に長蛇の列ができてしまった。こうなると受付はパニック状態である。

六つの班に分かれてのスタートとなる。見沼通船堀の差配役をしていた鈴木家を見て、通船堀に向かう。本日は史跡巡りでもあるので、通船堀について少々念入りに説明をする。この辺りは桜の回廊が続き、ソメイヨシノの他にも里桜として人気の、ウコン、フゲンゾウ、カンザンなどが植えられているが、わずかにアンギョウザクラとカワヅザクラの花が見られたにすぎない。

少し先にある、木曾呂富士塚に登る。このような塚は県内だけでも300ヶ所もあるという。中でもこの富士塚は県内最古のものとなっている。今回は運よく登りながら遠くに本物の富士山がはっきりと望むことが出来た。

住宅街を出て、見沼代用水東縁の方に下りると、斜面林の下には常連さんともいえる野草が顔を出していて春本番を感じさせてくれる。

オオイヌノフグリ、ホトケノザ、ヒメオドリコソウ、ハコベなどなど。樹木では、シキミ、ハクモクレン、トサミズキ、ワビスケ、サンシュユなどの花が見られた。



する。

釣り人達で賑わう水辺にはカワセミも枝に止まっていてしばし歓声があがる。

サブテーマにハイキングとうたってあるだけに歩く距離は長かったが、なかなかボリュームのある観察会であった。

(佐々木 明男記)

第57回自然観察ハイキング

『見沼の自然と史跡を訪ねて』

4月19日(土):晴れてはいるが、極薄い雲が懸った、肌寒い日の観察会になりました。

参加者30名を5班にして大宮図書館を出発。図書館前の二の鳥居と三の鳥居間の参道はケヤキが多くスダジイが混植されています(ケヤキは埼玉県の木・さいたま市の木)。

朱塗りの神橋が架った神池は、昔、広大だった「見沼」の入り江が残存しているもので、沢山の鯉が泳ぎ亀が甲羅干しをしている。

以前はミシシッピーアカミミガメが殆どでしたが、今日はクサガメが多く見られました。「見沼」の畔に水神として建っていた氷川神社が窺えます。

大宮公園に入り、まず一等水準点(土地の高さを測る際の基準点)へ。海拔15.1m。

広場はソメイヨシノを中心とした、桜のお花見の名所です。もうソメイヨシノの花は散っていましたが、オオシマザクラや(八重桜)の関山が咲いていました。

護国神社の鳥居をくぐると右手に、見事な彫刻のような木肌のアカシデの老木を見ます。

ボート池では、キンクロハジロ4つがい、カルガモ1つがいが見られました。

小動物園で、県の鳥:シラコバトを観察。今日の観察会指定の“珍しい木”トネリバハゼノキ(学問の木)を「歴史と民族の博物館」のベランダから、寄生植物のマツグミを日本庭園北口近くのモミの木で、ハンカチノキを日本庭園内で観察できました。

(五十嵐 力記)

見沼たんぼくらぶのイベント

第58回 自然観察ハイキング

「見沼の自然と史跡を訪ねて」

標記ハイキングは5月3日合併記念見沼公園（以下公園）集合である。当日は公園ふれあい祭開催中。参加者33名。公園管理棟の西側の木陰での集会后5班編成でスタートする。コースは公園・芝川右岸・高鼻橋・新右エ門新田・芝川左岸・中川橋・大宮南部浄化センター・見沼代用水西縁（以下西縁）敷島橋・天沼神社・大日堂・公園である。芝川土手はセイヨウカラシナの花が終わり緑色の帯に替わる。芝川左岸にある新右エ門新田の水田は既に田植えの準備を終わり水が張られている。芝川左岸土手にはアカツメクサに寄生するヤセウツボの群生があった。大宮浄化センターに向かう。ここにはみぬま見聞館・自然庭園が併設されている。みぬま見聞館は見沼の地形・歴史・動植物の生態などの工夫された展示などもあり、又、芝川に集まる水鳥観察できる双眼鏡が設置されている。自然庭園は



設備の南側にあり、樹木や野草が植えられ、水辺もあり自然観察に供されている。見学を兼ねた休憩の後、西縁・朝日橋に向かう。西縁左岸を更に北に向かう。東側の畑にはオオムギの穂が色付き始め麦秋の到来を知らせている。敷島橋を渡り天沼神社に向かう。鳥居（岡部鳥居）をくぐり境内に入るとひんやりとした木陰が待っている。境内には常緑樹のクスノキ・シラカシ・スダジイなどや落葉樹のエノキ・コナラなど17種の樹木が有るといふ。見沼代用水造成の総指揮者井澤弥惣兵衛為永の宿舎だった処でもある。東隣の大日堂は鎌倉時代創建、戦国時代に本堂が焼失し、江戸時代に再建されている。境内には建治2年（1276）の銘文のある緑泥片岩の大板碑（市文化財）、又「大日堂のシイノキ」（市天然記念物）という古木がある。芝川小の校庭などにあるニセアカシアの花を見ながら公園に帰り解散となる。

（若野 忠男記）

第97回見沼塾

「見沼地域の文化遺産」

第97回見沼塾「見沼地域の文化遺産」は市民の森見沼グリーンセンターにて、見沼通船堀の復元を手掛けるなど見沼たんぼの文化財研究の第一人者である青木義脩先生を迎えて開催された。参加者32名。

見沼地域とは元塚から舎人、戸田・蔵までの見沼代用水全長とその分水、見沼新田を取り巻く台地までを指す。この地域は八代将軍吉宗の



時代、紀州藩士の治水家の井澤弥惣兵衛為永を幕臣として迎え、見沼溜井を干拓するに際して、その代替用水を利根川から見沼代用水路を享保13年（1728）に開削し新田及びその周辺の灌漑に供したものである。その事業開始から280年以上を経る現在でもその使命を着実に発揮している。

文化遺産とは、例えば、世界遺産の登録では、国内法で保護の対象のものに限られている。つまり、未来の世代に引き継がれていくべき貴重な文化財を指している。ところが見沼地域の中で国内法の文化財保護法の指定を受けているのは見沼通船堀（水神社・木曾呂富士塚を含む）のみである。見沼は自然を巧みに利用した人によるもので歴史的経過を経た文化的景観を有しているが、文化遺産としての保護の対象となっていないのが現状である。見沼地域の文化遺産として、文化財保護法の指定を受けられる様な具体例の説明として、見沼代用水関係では、見沼通船堀を除いて、見沼代用水路、元塚、八間堰・十六間堰など19件、旧見沼溜井時代に係るものとして八丁堀、赤山陣屋など10件を挙げられた。紙面の関係もあり、見沼通船堀について付記する。享保16年に芝川と見沼代用水との高低差約3mを閘門式の運河で結び水運による江戸との物流を担う。同方式によるパナマ運河に先立つこと180年以上前のことである。（若野 忠男記）

見沼たんぼ水彩スケッチ紀行

見沼弁財天

1999年8月に描いた加田屋新田の見沼弁財天を、見沼通信 2006年1月号掲載させて頂いた。この作品は2014年2月に同一場所で描いたもの。周辺が小公園として整備され、お参りする人や見沼を散策する人々の憩いの場ができたことは有難い。かつて一面に広がっていた水田は、畑作への転用工事が進められており、遠方に見える西福寺の南には大型温室が建てられている。これからの「見沼たんぼ」の移り変わりが注目される。

絵と解説 八木一郎



田植えを終えて

加田屋川に架かる山下橋から下流方面を見たところ。6月も



終わりに近く兩岸の田植えはほぼ終えて、今まで斜面林を映していた田の水面も、勢いよく伸びた若い稲穂で覆われて緑一色になった。満々と水を湛えた川には鴨が飛び交うのがみられ、蛙の鳴き声が快く耳に入る。

芝川第一調節池

芝川は勾配が緩やかで、また合流する荒川の干満の差も受けやすいため、たびたび水害にみまわれてきた（昭和33年狩野川台風・昭和41年大出水など）。

その対策として新芝川の開削と並川を挟む左・右岸に遊水機能の設置工事が完成、現在右岸の造成が進み、両岸工事が完成すると面積は92となり、東京ドーム2.3倍分に相当豊かな自然が残されており、周囲にて市民の憩いの場所となっている。帯であり、収穫された稲束を干す為トネリコ（別名タモノキ）が見られた。水没のおそれがあるため武蔵野線北の散策路近くに移設されている。



行して、武蔵野線の北側芝が計画された。既に左岸はめられている。

ha. 治水効果は284立方m³するとのこと。調節池にはは回遊の散策路が整備され当地はかつて豊かな水田地のハサギ（稲袈木）として、縁に多く植えられているため、トネリコ数本が2002

見沼たんぼくらぶ会員作品展



旧家住宅見沼くらしっく館 作者 新村長門

加田屋新田を開き名主を務めた坂東家の母屋で、修復後公開されている市の有形文化財。安政4年（1857年）建築された寄棟作り茅葺で、中央には格式の高い玄関が設けられています。私ども「見沼スケッチ会」では毎月一度ここに集まって見沼の田園風景を描いております。この作品は2月のものですが、寒い北風も木立ちや建物に遮られて、暖かなスケッチ日和になりました。

見沼たんぼ探訪記

見沼区の尾島家を訪れる

4月の末、尾島家の屋敷に入ると、淡紫紅色の「クマガイソウ」の花が下草の中から頭をもたげているのに目が止まる。3cm程の袋状になっており面白い形をしている。昔、武士が付けていた母衣はもろに似ており、源平合戦で勝利した熊谷直実の名を採って「クマガイソウ」と名付けたという。

一段と低くなっている所に進むと、薄紫色で1cmほどの小さな花が木陰の下に沢山咲いている。「イカリソウ」とのことだ。花卉の一部が細長く

とがっており手を広げたような形をしている。「名前の通り、船の碇のような形



をしているわ・・・」と近くに居たご婦人が、感心して友人に話し掛けている。

こげ茶色をしており1.5cm程の大きさで、横から見ると「鎌」の形に見える筒状の花は、注意して見ると花の先に紐状ひもじょうの付属体を垂らしている。「ウラシマソウ」とのことだが、浦島太郎が釣りをしていることを連想させるのでこのような名前を付けたらしい。

敷地内をあちこち歩くと、このように普段あまり見る事の出来ない珍しい植物があり、私たちを楽しませてくれる。いずれも絶滅の危惧が叫ばれている植物であるが、尾島家のご尽力のお蔭で大事に保護されており、感謝の気持ちで一杯である。

散策路に沿って主要な植物には「花名札」が付いている。今を季節とするボタン、シャクナゲ、ツバキ、サトザクラ・・・、それこそ沢山の花々が多彩な色合いを見せてくれる。花に興味のある方にとっては、1日中、楽しむことが出来る所であろう。

(召田 紀雄記)

自然観察ハイキング『見沼たんぼの春の七草 & 斜面林のキンラン・ギンラン』

130名7班編成で田圃や森の花を楽しむ

4月29日、市民の皆さまに見沼たんぼ北西部の春の花を楽しんでいただきました。7班編成で、NPO法人自然観察さいたまフレンド所属の日本自然保護協会自然観察指導員11名がガイドを務めました。

コース：大宮公園駅…見沼代用水西縁…見沼1丁目田圃…芝川…大和田緑地公園特別緑地保全地区…第7調節池…大宮第二公園…大宮公園。

見沼1丁目田圃 春の七草は6種確認

田植え前の田圃まわりには、湿性植物のコオニタビラコとムラサキサギゴケが見事に群生。

春の七草は野菜のカブを除き6種確認。

大和田緑地公園特別緑地保全地区 (斜面林)

林床はお花畑 絶滅危惧5種(☆印) 開花

参会の皆さまが歓声をあげて次々と見付けたのは、☆ウラシマソウ・ジュウニヒトエ・フタリシズカ・ミツバツチグリ・☆ギンラン・☆キンラン・☆シュンラン・☆ワニグチソウ。

大宮公園 寄生植物マツグミなど珍しい木が

ゴールの大宮公園日本庭園では、モミの木に寄生する絶滅危惧種マツグミ、植栽して大きく成長したハンカチノキ(白いハンカチを連想する苞が満開)、葉書の語源となったタラヨウに人気が集まりました。

見沼たんぼ北西部は“みどりの宝庫”

今回歩いた周辺は、人の力で自然を守り育ててきた所です。私たちが保全作業を行っている北から南へ続く斜面林—土呂自然の森・大和田2丁目緑地・大和田1丁目特別緑地保全地区・大和田緑地公園特別緑地保全地区・南中丸緑地公園は、芝川・田畑及び樹木の多い大宮公園・大宮第二公園・大宮第三公園・市民の森の都市公園と一体となって、広域の緑地帯を形成しています。この“みどりの宝庫”は、大気の浄化と生物多様性の保全に大きく貢献しています。

(NPO法人自然観察さいたまフレンド

代表理事・小野 達二記)

見沼たんぼの仲間たちNo.30

見沼歴史倶楽部紹介

見沼区といえば「見沼の田んぼ」を思い浮かべるように、かつて見沼には広大な田んぼが広がっていました。

ではその田んぼでどのような「米作り」がなされていたかご存知でしょうか。

田んぼといえば「田植え」を誰でも思い浮かべますが、この田植えができないところが見沼にはありました。そこは狭い谷地が 台地の奥深くまで入り込んでいて、いつも水が溜まり、じめじめとしているところでした。そうしたところでは田植えをしないで稲の種を、下肥と草木灰とをよく混ぜたうえで、それを親指と人差し指と中指でつまんで田に落とすという直播きをしていたのです。

この播き方を「田摘み」といいました。この田摘みは膝が埋まるほどの「底なし田」での作業を余儀なくされ、とてもきつい仕事でした。しかし50年ほど前まで見沼の田んぼでよく見られたこの光景も、今では地元の一部のお年寄りしかご存知ありません。

また見沼の周辺には「新秩父三十四か所観音めぐり」というのがあります。秩父の観音めぐりに行くには大変だから、見沼のまわりで観音参りをして御利益に預かろうというもので、十二年に一回、午年に御開帳されるのです。今年ちょうどその午年にあたり、春のお彼岸に、一番の笹丸・観音堂から三十四番・風渡野の大圓寺までの観音様が御開帳されました。

大圓寺のように大きなお寺もありますが、なかには個人でお堂を管理されていて、「十二年間観音様が待っておられたので、会社を休んで開けました」というところもありました。このように「新秩父三十四か所観音めぐり」は江戸時代から十二年ごとに開かれて今日まで続いているのです。

それから見沼区には円空の鉦彫りで有名な「円空仏」が数多く残されています。

島の薬王寺では信者の方々が大切に御守し、お

寺の法会の時に、円空仏を公開しています。

わたしたちは いまでも残っている行事や文化財にふれながら、むかし見沼に暮らしていた人々の思いに少しでも近づきたいと思い、昨年秋、「見沼歴史倶楽部」というサークルを立ち上げました。

それは 大宮郷土史研究会の会員の呼びかけのもと、見沼の歴史に興味のある方なら誰でも参加できる倶楽部として動き出したのです。会員の中には、昔から見沼に暮らし御先祖が代々名主を務めてきた家の方もお見えなら、見沼に引っ越して〇年という方もおられます。合言葉は「見沼の歴史を知りたい」です。ですから誰でも大歓迎なのです。そして昨年度は研究成果のまとめとして「插花・巖松斎」というお花の御師匠さんの展示を3月アートフェスティバルに発表しました。

見沼の歴史に興味のある方、わたしたちと一緒に「見沼の歴史」を極めませんか！

本年度の講義・見学会は、毎月第二火曜日に開催します。場所と時間はその都度お知らせします。年会費は1000円ですが、場合により別途に集金することがあります。

会長 石渡政男 自宅電話 048-688-3026



大和田地区の歴史散歩 2014年3月

(斉藤 文孝記)

見沼たんぼを支える農家さん

「ブルーベリープラザ浦和」

備藤行裕さん

今ではすっかりおなじみで人気抜群のブルーベリーですが、かつては「色が気持ち悪い」などの理由でなかなか受け入れられなかったそうです。備藤家は元々植木農家でブルーベリーの苗木も扱っていましたが、残ってしまった苗がもったいないのでお客さんに摘み取ってもらおうか、と植えたのがそもそものきっかけだったそうです。

摘み取りを始めて18年、6月初旬から9月中旬まで3.5haの畑で早生種からはじまる厳選23種類ものブルーベリーが楽しめるほどになりました。もちろん苗木の生産・販売も続けていて、市内のブルーベリー栽培農家にも卸しています。

大崎公園のすぐ近く、広々とした畑の中のブルーベリーのネットに囲まれたいくつもの区画が備藤さんのブルーベリー畑です。

お訪ねしたのは5月の終わり、まだ緑色の大きな実の中のいくつかの色づき始めていました。お客さんが生のブルーベリーを食べて



(ブルーベリー色の移動販売車)

「おいしい!」と言ってくれるのが何よりのやりがいだと話してくれた長身の行裕さんは、ただ父を手伝っていて、それしか道がなかったから継いだだけです、とさりげなく話されましたが、お話の端々からブルーベリーに対する熱い思いが伝わってきます。

「見沼は、宅地に変わってしまう心配をしないで安心して農業ができる場所だし、大消費地に近いという有利な立地条件もある。まだ知名度が低いけれど、しっかりと情報発信していけばもっと様々な可能性が開けてくるはず」、「安心しておい

しく食べてもらうための労は惜しまないし、苦にも思わないけれど、ただ、夏の炎天下、摘み取りに来てくれたお客さんがちょっと一休みできる涼しい休憩所と清潔なトイレを畑の一隅に用意できたら…。この環境を守り生かしながら必要最小限の設備を整えるためにはどうしたらいいのか、というのが行裕さんの悩みであり、同時に見沼の課題でもあります。



(ブルーベリー畑の備藤行裕さん)

市内十数校の学校給食にも卸しているというブルーベリーですが、備藤さんの所では生産だけではなく、加工・販売までをも一貫して行う6次産業化にも積極的に取り組まれていて、自宅にジャムの加工場を建設、試作を重ねてこの6月から本格稼働とのことですが、すでに市内数か所のケーキ屋さんやパン屋さんでは販売が始まっています。

またブルーベリー色のかわいい移動販売車で移動販売も行っています。そのためにお母さん、お姉さん、奥様の女性スタッフは皆加工の資格を取りました。

この夏、どこかでこのブルーベリー色のかわいい車を見つけたら、あなたもおいしい自家製ブルーベリーシロップのかかったかき氷を食べられますよ!

(取材：島田・高橋、記：高橋)

見沼たんぼくらのイベント案内

見沼ふれあい農園—秋野菜づくり 《家族連れ歓迎》

日時：9月6日・27日、10月11日、
11月1日・15日の全5回土曜日
10時～12時（9時30分より受付）
*第1回雨天の場合は13日（土）
*第2回以降は雨天順延の日曜日

会場：見沼たんぼくらぶ農園2号地
（さいたま市緑区大字見沼484番地）

■ スタッフで耕耘・施肥・畝づくりを終え、
種蒔きから始めます。

種蒔き：大根、カブ、春菊、水菜、小松菜
苗：キャベツ、ブロッコリー

交通：JR武蔵野線東浦和駅からバス③さいたま東営業所行き9：03発「朝日坂上」
下車、徒歩10分（氷川見沼公園の南）

募集定員：100名（応募者多数の場合抽選）

参加費：無料

申込み：7月1日～15日

〒330-9301 埼玉県土地水政策課
（住所の記載不要）宛、葉書に行事名・参加者全員の氏名（ふりがな）・年齢、代表者の住所・電話番号を記載のこと。

* 7月末返信送付

第100回見沼塾『見沼たんぼの昆虫』 講義&観察

日時：9月20日（土）9時30分～12時
会場：市民の森 見沼グリーンセンター2F会議室（さいたま市北区見沼2丁目94番地）

講師：牧林 功 氏（埼玉昆虫談話会）

申込み：当日、会場で9時から受付

参加費：無料

交通：JR 宇都宮線土呂駅東口から徒歩10分
（見沼代用水西縁・川島橋の東側）

※ 行事の後、市民の森内の施設見学をどうぞ
「りすの家」（シマリス放し飼い）
「展示温室」（熱帯・亜熱帯植物植栽）

第59回自然観察ハイキング

綾瀬川低地の自然と史跡を訪ねて

日時：10月4日（土）9時～12時

集合：JR 宇都宮線東大宮駅東口階段下
（路線バスで「アーバンみらい」へ）

コース：春野公園（春野図書館北側）⇒丸ヶ崎・深作田圃⇒深作多目的遊水地⇒宝積寺

■ 見沼代用水東縁東方の低地（見沼区内）はさいたま市内最大の穀倉地帯で、稲田の他に蓮田もクワイ田も健在。絶滅危惧種のサンショウモ・ミズワラビ・シロバナサクラタデが多い。

深作多目的遊水地は日本初の多自然型工法による遊水地で、ヒシ・タコノアシなどの絶滅危惧種が見られます。

申込み：当日、集合地で8時30分から受付

参加費：¥500（ただし、会員家族は無料）

会員の皆さまへのお願い！

- …見沼たんぼ地域に関わる作品（絵画・写真・紀行文・詩・俳句・短歌等）をお寄せください。
- …見沼たんぼくらの事業や見沼たんぼ保全に関わるご意見をお聞かせください。

みぬま通信第59号

発行日 平成26年月7月1日

発行所 見沼たんぼくらぶ

〒337-0053 さいたま市見沼区大和田町
1-2124-3 小野方

TEL・FAX (048) 683-1764

E-mail t.ono@axel.ocn.ne.jp

URL <http://minumatanbo.web.fc2.com/>

© 2013 Minuma Tuusin